

モラルジレンマ授業の勧め (5)

ーモラルジレンマ授業が自尊感情の発達に及ぼす効果：中学生の「道徳授業」を通してー

○ 平岡清志 (姫路獨協大学)
藤田裕一# (神戸大学)

竹田レイ子# (神戸市教育委員会)

児童・生徒や学生の「自発性」や「自立性」, 「自尊感情」の育成は, 今日の教育において必須の課題であり, 不可欠である。しかし, その育成には, どんな授業が効果的なのか?

本研究では, 自発性や自立性, 自尊感情を育てていく一つの方法として中学校の道徳授業の中で, 「モラルジレンマ授業」を実施し検証した。モラルジレンマ授業とは, コールバーグの提案であるが, それは認知的不均衡を喚起し, 自ら発言するように動機づけられることを意図している。

幼児期・児童期から「自発性」や「自立性」, 「自尊感情」の育成が不可欠であるが, この種の判断基準の育成には, 幼児期からの環境, 特に学校環境での指導のあり方が重要な要素となる。幼児期, 児童期, 中学生, 高校生, それぞれが適切な題材の元でモラルジレンマ授業を行えば, これらの育成が可能だと思われる。そこで本研究では, 平岡など (2010, 2011, 2013) の研究例を踏まえて, 今回は中学生を対象にして「モラルジレンマ授業が自尊感情をあげることができるのか否か」を, 中学生 4 クラスを対象にして検証した。

【方法】

1. 調査対象：姫路市内にある中学2年生 4 クラス
2. 調査時期：平成 25 年 7 月
3. モラルジレンマ教材要旨：「地震」

主人公の成田さんは, 救急隊員であった。家庭では 3 歳の子どもと出産間近の妻とともに, 公私共に充実した日々をすごしていた。ある日の午後, 町へ出かけていたとき, 大きな地震が起こった。消防署に電話するもつながらず, 自宅の妻に電話をしてもつながらず。電車は不通, 車は渋滞, 市街の電光掲示板のニュースで, 北野市・南野市は大地震のためにビルは倒壊し, 壊滅状態にあるという。職務に徹して災害現場に行くべきか, 安否の確認が取れない自分の家族が気になる自宅に向かうべきか?

4. 質問紙：(1)「道徳」授業に対する授業前・後の評価, ①従来の道徳授業と比べて楽しかったか, ②次の授業が待ち遠しかったか, ③この種の道徳授業は「役に立つ」と思ったか

【自尊感情】：(2) 小学生版学校生活充実検査 (荒木, 2003) に含まれる自尊感情尺度 (29 項目, 4 因子構造—自己肯定感, 自己価値観, 幸福感, 責任感から成る) を使用。回答は, ①全く思わない, ～④強く思う, までの 4 段階の評定尺度法で行った。

5. 手続き：まず物語を理解し, その後, 教師は中立の立場に立って司会進行していく。生徒は, 「成田さんは消防署に向かうべきか, 「家族の元へ向かうべきか」かを自主判断し, 教師の司会の元で, 生徒相互で議論をし合う。教師は, 最後まで中立を保ち, 生徒が発言しやすい環境を保ち, 最後まで自分の意見を出さないようにする (オープン・エンド)。

※尚指導教師は, 担任ではなく, 実験者二人が行った。

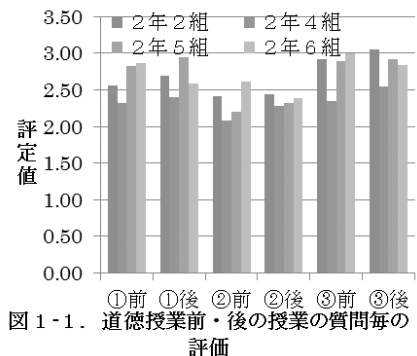


図 1-1. 道徳授業前・後の授業の質問毎の評価

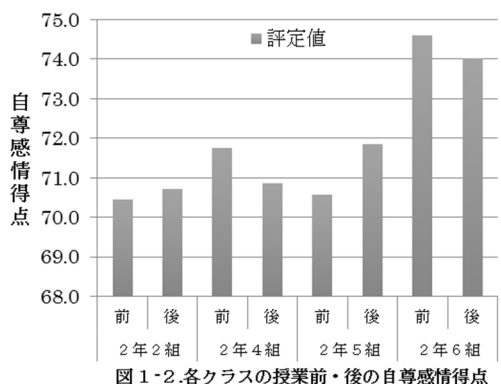


図 1-2. 各クラスの授業前・後の自尊感情得点

【結果および考察】

モラルジレンマ授業に対する生徒の評価は, 図 1-1 に示す。授業前と授業後の評価, ①「授業は楽しかった」②「次回が待ち遠しい」③「役に立つ」は図 1-2 に示す。